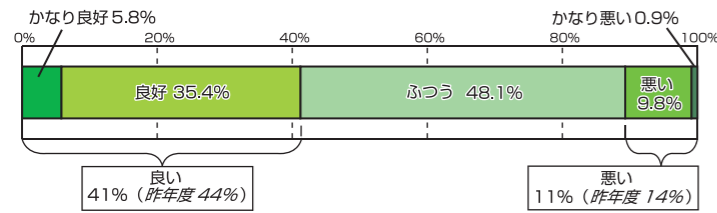
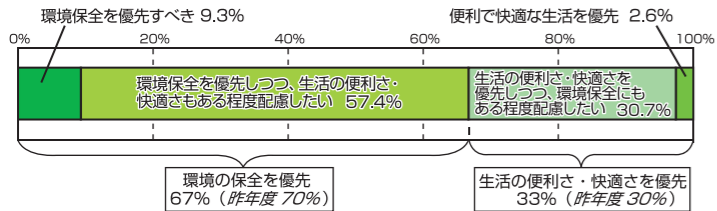


# 環境に関する市民意識調査から

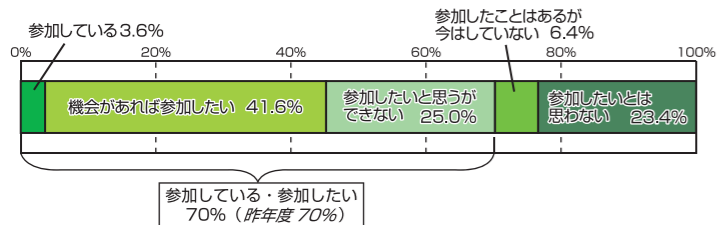
(問) 横浜の環境の現状について、どのように感じていますか？



(問) 環境の保全と生活の便利さ・快適さの優先度は？



(問) 地域の環境活動に参加したいと思いませんか？



平成24年度「環境に関する市民意識調査」

実施期間：平成24年8月23日～8月29日設問数：32問 / 調査方法：インターネット調査

横浜の環境の現状についてどのように感じているかという質問に対して、「ふつう」という回答が48%と一番多いものの、「かなり良好・良好」という回答の合計も41%あります。

また、環境の保全と生活の便利さ・快適さの優先度についての質問では、「環境の保全を優先」という回答が約7割に迫っています。

地域の環境活動への参加についての質問に対しては、「参加している・参加したい（参加している、機会があれば参加したい、参加したいと思うができない）」との回答が約7割と、環境活動への関心の高さがうかがえます。

環境活動に参加する機会の創出、環境活動に関する情報の発信が求められています。

# 横浜の環境

横浜市における様々な環境の現状や取組状況についてお知らせします。

第13回環境絵日記の横浜市環境創造局長賞受賞作品（横浜市立すすき野小学校6年木野菜ツ子さんの作品）です。この作品には、生き物や自然に対する思いがあふれています。この作品のように自然とふれあい、愛することから始めていただきたいと思います。



第13回環境絵日記（主催：横浜市資源リサイクル事業協同組合）

## もっと横浜の環境について知りたいと思ったださった皆様へ

このリーフレット「横浜の環境」は、平成24年版「横浜の環境」（横浜市環境管理計画※年次報告書）の概要を掲載したものです。「横浜の環境 本編・資料編」では、より細かな環境の現状や横浜市の取組を紹介しています。ぜひそちらも御一読ください。

### 【入手方法】

・横浜市環境創造局ウェブサイトからダウンロード

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/etc/jyorei/keikaku/kanri/nenjihoukoku/h24/>

・市役所、区役所、市立図書館等で閲覧

・市役所1階市民情報センターで販売（本編・資料編セット 1,000円）

### ※横浜市環境管理計画

横浜市の環境行政を総合的に進めていくための計画として、平成23年4月に新たな「横浜市環境管理計画」を策定。「横浜の環境」は、この計画の年次報告書に位置づけられています。

### 横浜環境情報 ツイッター



環境関連イベントや皆様のエコライフに役立つ情報を発信しています。



横浜環境情報ツイッターQRコード

## 生物多様性

身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし

平成24年8月に実施した「環境に関する市民意識調査」では、生物多様性という言葉を知っている人が47%でした。

横浜市では、「ヨコハマbプラン（生物多様性横浜行動計画）」を策定し、生物多様性の認知度を高め、保全・再生・創造を進める取組を積極的に実施しています。

### 「ヨコハマb フェスティバル2012」の開催



生物多様性自治体ネットワーク定期総会開催記念 生物多様性ミニフォーラム



第2回生物多様性全国ミーティング

### 「横浜つながりの森」構想策定



森の体験イベント

平成24年11月、生物多様性自治体ネットワーク総会が開催され、横浜市は自治体ネットワークの代表に選出されました。様々な生物多様性に関する普及啓発キャンペーンイベントを平成24年10～11月にかけて、「ヨコハマbフェスティバル2012」として開催しました。

市南部に位置する生物多様性の宝庫といえる円海山の周辺を「横浜つながりの森」と位置付け、構想を策定しました。この森を市民全体で、体験・感動し、次代につなげていくための取組を進めます。



横浜市環境創造局 政策調整部 政策課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL:045-671-2891 FAX:045-641-3490 平成24年12月発行

# 地球温暖化対策

化石燃料に過度に依存しないライフスタイルへの転換

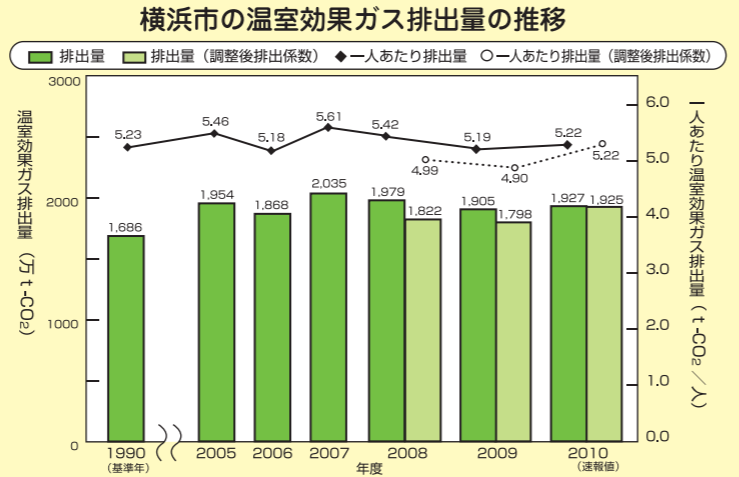
横浜市の平成21(2009)年度の温室効果ガスの排出量は約1,798万t-CO<sub>2</sub>(調整後排出係数)で、日本全国の排出量の約1.5%を占めます。

温室効果ガスの大部分を占める二酸化炭素の排出構成を横浜市と全国で比べると、横浜市は産業部門の占める割合が低く、家庭部門(家庭生活からの排出)の割合が高くなっています。

## 主な取組

- 横浜スマートシティプロジェクト(YSCP)の推進
- 電気自動車やHEMS\*(ホームエネルギーマネジメントシステム)等導入への補助
- 「横浜市環境未来都市計画」の策定、推進

\*HEMSとは家庭のエネルギー使用量・発電量を「見える化」できるシステムです。



\*平成20(2008)年度以降は、電力のCO<sub>2</sub>排出係数に電気事業者が取得した京都メカニズムクレジット等の量を反映させた「調整後排出係数」を用いて算定した排出量を併記しています。

\*電力のCO<sub>2</sub>排出係数に、京都メカニズムクレジット等の量を反映させない「実排出係数」を用いています。

# 水とみどり

自然の恵みを楽しむ環境の保全・再生・創造

横浜市では、急激な都市化の進展に伴い、緑(山林・農地等)が失われてきました。横浜市の緑被率は平成21年で約29.8%という結果となっています。

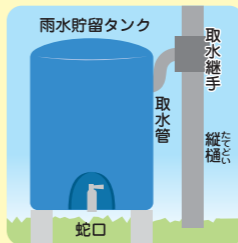
平成21年度から実施している「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」では、樹林地の制度指定による保全や、相続など不測の事態による買取り希望等に着実に対応することができ、減少は鈍化傾向にあり、緑の減少に歯止めをかけることができています。

また、良好な水循環の再生のため、雨水浸透ますや雨水貯留タンクの普及等を推進しています。

## 宅内雨水浸透ます



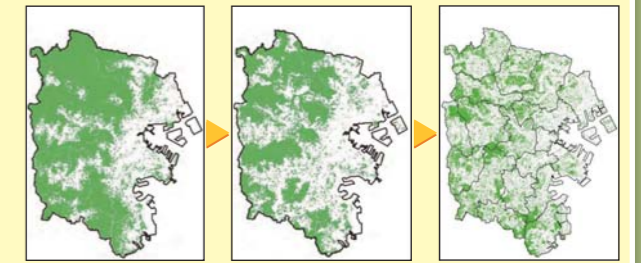
## 雨水貯留タンク



## 主な取組

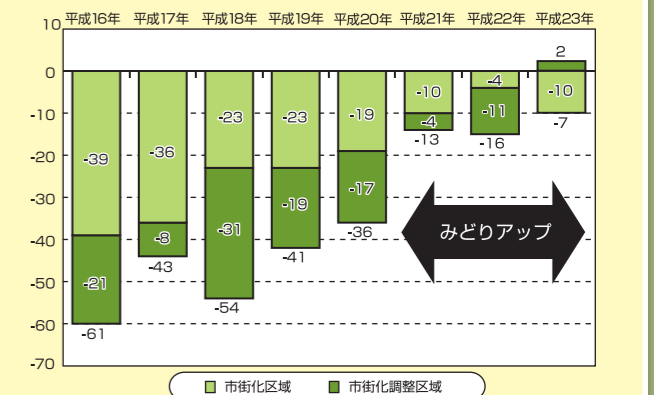
- 「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」の更なる推進
- エコな庭づくりや雨水浸透ますの設置推進

## 緑の移りかわり



昭和45年 (緑被率 約50%)  
 昭和55年 (緑被率 約40%)  
 平成21年 (緑被率 約29.8%)  
 \*緑被率は、調査年度によって、調査手法や精度が異なるため、概ねの傾向を示したものです。

## 山林の減少状況 (単位 ha)



\*面積は、固定資産税の課税地目が山林である土地の面積から算出した推計値

# 生活環境

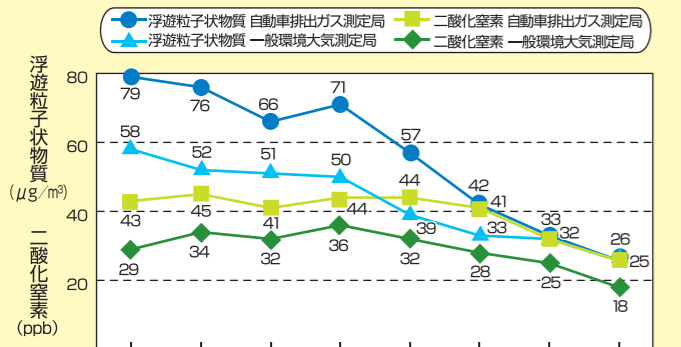
安全で安心・快適な生活環境の保全

代表的な大気汚染物質である浮遊粒子状物質や二酸化窒素の年平均値は、燃料の良質化や工場・事業場に対する規制・指導並びに自動車排ガス規制の取組の強化によって改善しています。

河川の水質は、下水道の整備や工場の排水規制によって、大きく改善しています。

一方で、横浜沿岸域の水質(有機汚濁の指標であるCOD、富栄養化の原因となる全窒素及び全りん)については、まだまだ改善が必要です。

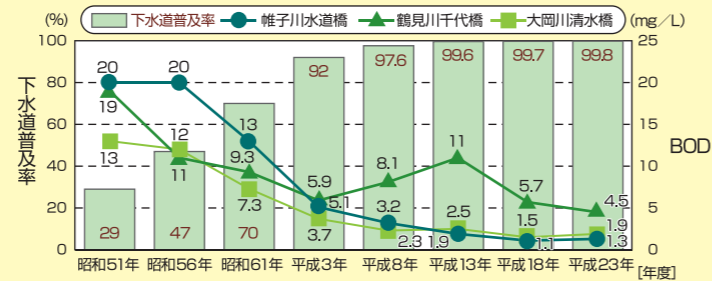
## 大気汚染物質の年平均値の推移



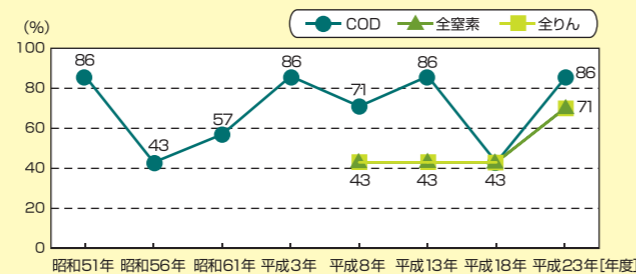
## 主な取組

- 工場・事業場に対する継続的な規制・指導
- 下水の高度処理化などの放流水質改善

## 下水道普及率と河川水質 (BOD75%値の推移)



## 横浜沿岸域における環境基準適合率の推移



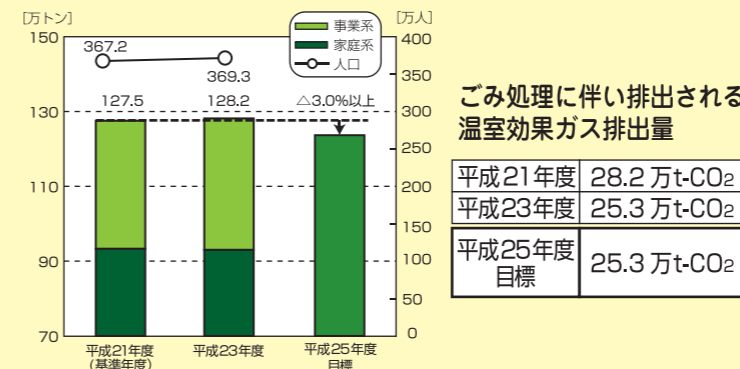
# 資源循環

循環型社会の構築

横浜市ではごみ減量と脱温暖化に取り組み、豊かな環境を後世に引き継ぐことで、子どもたちが将来に「夢」を持つことができる社会の実現に取り組んでいます。

平成23年度のごみと資源の総量は、台風等の影響により、基準年度と比較して微増しました。

## ごみと資源の総量及び人口の推移



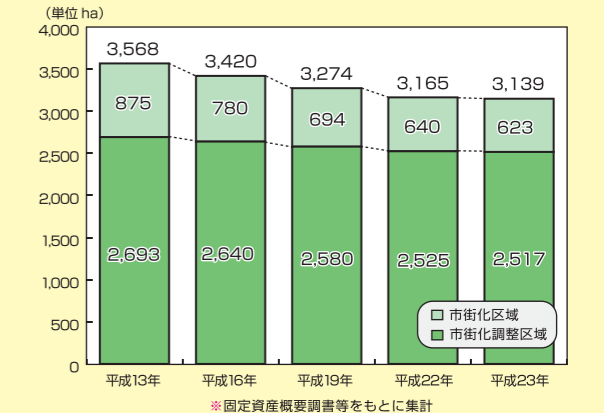
## 主な取組

- 「ヨコハマRひろば」を活用したリデュースの取組推進
- 事業者による減量化と分別の推進
- 資源集団回収の推進

# 食と農

「食」と「農」との連携による横浜型農業の新たな展開

## 農地面積の推移



「農」のある環境を守るため、水田やまとまりのある農地の保全を進めています。また、市民が身近に感じる地産地消の取組を進めています。

## 主な取組

- 農地の保全
- 地産地消の推進